

松下正壽 まつしげ まさひさ 國際法學者。明治二十四年四月十四日京都生れ、昭和六十一年十一月二十四日歿（七五—一六）。大正十一年と教大學生、アメリカに留學、昭和四年同大教授（二十年總長）。戦後の東京裁判の東條英機の辯護人を務めた。四十三年参議院議員、その前後一度都知事選に立ちも落選。

著書の『フィリピン文化』（編、昭和十六年四月十五日理想社出版部）、『フィリピン』（昭和十七年一月十八日大阪・朝日新聞社）、『アメリカの世界制覇主義解剖』（他三名合著・太平洋協會編、昭和十九年九月二十日太平洋協會「出版部」・「アメリカ研究叢書」）、『大東亞の建設』（合著・大東亞戰争調査會編、昭和十九年十一月十日毎日新聞社）、『萬邦共榮論』（昭和二十年一月二十日文松堂出版株式會社）、『アメリカ憲法解説』（昭和二十一年十一月十二日國際聯合研究會）、『民主主義の理論』（合著・堀真琴・榊俊雄編、昭和二十四年二月一日發售社）等。

